

## 2021 年度人文学部 FD 活動報告

(キリスト教学科、人類文化学科、心理人間学科、日本文化学科)

2021 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響、100 分授業の開始など、想定外、想定内の環境変化があり、学生、教員ともに試行錯誤の多い年度となった。このような状況の中、人文学部としては従来の FD 企画の成果を検証すると共に、今後どのような企画が必要なのかを考えるとという年度目標を掲げた。

これに対して、2022 年 1~2 月に人文学部所属教員に対してアンケート調査を行った。内容は、①2016 年度以降に実施された全学および学部主催の FD 企画に関して、有用性の評価やどのように役立ったのかについての意見聴取、②今後の人文学部の FD 企画に際しての情報収集 (FD 活動に対する意識や要望、提案など) という大きく 2 つであった。2022 年 3 月 9 日に報告会を開催して結果を共有し、意見交換を行った。なお調査結果からは、これまでの FD 企画は、教員の主観レベルではあるが有用に作用しているであろうことを確認できた。また今後の活動への示唆的な内容として、学生の学力差という課題への対応、学部教育に対する社会的ニーズの把握、授業研究や評価法、WebClass やアンケート・ツールの活用などに関する問題提起、提案があった。これらを今後の FD 活動計画の資料として活用していく。

次に、各学科においての主な取り組みを紹介する。

キリスト教学科では、学科会議を中心に次のような活動を行なった。第一に、キリスト教学科は 2019 年度から卒業プロジェクト論文審査において副査制度を導入したが、主査と副査の役割分担をはじめいくつかの点で、教員間で共通理解が得られていなかった。また、2020 年度に導入が決定された「研究プロジェクトの評価基準」が 2021 年度から正式に運用されたことに伴い、主査と副査の間における「評価基準」の点数の扱いや、成績評価への反映方法等、新たな検討課題もあった。そこで、これらの問題について討議を重ね、方針・基準を定めることで、より充実した卒論評価の体制を構築できた。第二に、電子提出された卒業論文データを在学生が閲覧するルール等を検討し、周知文書を作成・配布した。

人類文化学科では、学科の自己点検・評価のための会議を計 13 回実施し、そのなかで学科のカリキュラムの検討をすすめ、以下の改善を行なった。①本年度の学科 FD 活動計画にもとづき、「人類文化学基礎演習」のより円滑な実施に資するべく担当者に関する新たなルールづくりを行なった。②「研究プロジェクト」の口頭試問の際の不測の事態に備えて、学科の危機管理マニュアルを新たに策定し、本年度の 9 月卒業予定者から運用を開始した。③例年、卒業予定者に対して行なっている学科アンケートの設問内容を学科のディプロマ・ポリシーにより則したものとすべく一部修正するとともに、実施方法も従来の紙によるものから Google フォームによるものに切り替えた。④「研究プロジェクト」の評価基準のうち、30%の口頭試問評価の部分に関する評価基準をより明確なものにした。

心理人間学科は、①多様な機会をとらえて学生、授業の情報を共有すること、②公認心理師受験資格対応カリキュラムを計画通りに進めること、③新入生、卒業生、オープンキャンパス参加者を対象とした学科教育にかかる調査活動を行うことに加え④2019年度に策定した学生の計画的な履修に対する学科の指針に沿った学生指導を行うこと、および⑤授業外での学習を奨励することを定型化した活動計画としている。2度開催したFD企画において、公認心理師受験資格対応カリキュラム、卒業生を対象とした学科カリキュラムに関する調査、授業外での学習を奨励、授業の情報などについての現状と課題について報告・議論した。また、学科会議など多様な機会をとらえて学生や授業の情報を共有する活動は臨機応変なFD活動を促進した。それらの議論の結果として、2021年度では新たに、本学科の心理学科目について学生も関与して企画した紹介VTRの作成やZoomを使って学園内高等学校の生徒も参加する研究プロジェクト発表会の開催などを実施することができた。

日本文化学科では、まず、すべての学生が履修する基礎演習および演習の授業を通じて、学生・教員間の緊密なコミュニケーションを図った。また、特別な配慮や指導を要する学生については、学科会議などを通じて教員全体で情報を共有するように努め、指導教員を中心に学科全体で指導することにより対応した。年度末(3月9日)には、「研究プロジェクトの指導について」と題した企画を行い、他大学での卒業研究の指導経験がある平子先生、上田先生、改組以前の国文科時代の指導経験がある辻本先生の報告のあと、参加者全員で活発な討議を行った。特に、ゼミがないQ2の期間の指導・対応の方策、各ゼミに前提科目を設けることの検討など、課題を明確にすることができた。全体として、他大学の指導についても知ることができ、また、学科の教員の指導上の工夫についても情報を共有でき、有益なFD活動となった。今後も継続的にこのような機会を設けることが、研究プロジェクトの指導をよりよいものにするために必要であるという考えを共有することができた。